

公益社団法人日本臨床細胞学会
2025年第1回理事会 議事録

日 時：2025年4月29日（火・祝）10：45～12：45

場 所：WEB開催

役員総数： 43名（理事 40名、監事 3名）

出席総数： 理事 40名

（理事）岡本 愛光、阿部 仁、有廣 光司、板持 広明、伊藤 潔、伊藤 仁、井上 健、伊豫田 明、大平 達夫、川名 敬、近内 勝幸、齋藤 豪、佐藤 之俊、澁木 康雄、下田 将之、進 伸幸、田尻 琢磨、田畑 務、都築 豊徳、豊田 進司、長尾 俊孝、中村 直哉、西野 幸治、羽場 礼次、藤井 多久磨、前田 一郎、松浦 祐介、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森定 徹、森谷 卓也、柳田 聡、山上 亘、山口 倫、山下 博、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道

出席総数： 監事 2名

（監事）長村 義之、佐々木 寛

（新規理事候補）佐治 晴哉、内藤 嘉紀、中里 宜正、松本 慎二

（細胞診専門医会長）青木 大輔

（膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ）平林 健一

（総務委員会幹事）片岡 史夫、星 利良、和田 直樹

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

（陪席）竹中 将貴

（中田公認会計士事務所）糸永 圭一

本理事会は、定足数の半数以上（理事40名中40名出席）を満たしたので有効に成立した。

テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す。

本理事会の開催にあたり、*岡本 愛光 理事長、*森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集、認定試験、検査士、国際交流、IAC、渉外]、*田畑 務 副理事長[教育、学術、財務、専門医、臨床研究]の挨拶および報告が行われた。

*理事長報告・挨拶 (岡本 愛光)

この2年間、理事長として務めさせていただく中で、多くの委員会やワーキンググループの皆様におかれましては、精力的に活動し学術的にも実務的にも大きな成果を上げていただいた。皆様のご尽力に対し、心より感謝申し上げます。また、春期大会・秋期大会ともに、関係各位の協力のもと成功裏に開催することができたことを、改めて厚く御礼申し上げます。次回以降の大会に向けた準備も着実に進められており、会長の先生方をはじめ運営に携わるすべての皆様に深く感謝申し上げます。本日は、理事長として担当する最後の理事会となるが、引き続き活発な意見交換と議論が行われることを期待する。

*副理事長報告 (森井 英一、田畑 務)

森井 英一 副理事長： 2025年4月から公益社団法人法が改正されることに伴い、定款の一部変更が必要となる。具体的には、外部理事・外部監事を迎え入れることが求められるため、これに対応する形で調整を進めていく必要がある。この制度変更にあたり、宮城先生をはじめとする制度審議委員会の皆様、そして関係する先生方には多大なるご尽力をいただいております、心より感謝申し上げます。定款変更の実施に向けて、総会における3分の2以上の承認が必要となる。皆様のご協力を仰ぎながら、円滑に手続きを進めていきたいと考えており、引き続きよろしくお願ひしたい。

田畑 務 副理事長： HPV検査単独法の導入は、大きな転換期であると考えている。しかし、現時点では本学会として十分な対応ができていたとは言えず、今後はこの課題に対して学会全体で取り組んでいく必要がある。また、最近では細胞診専門医を目指す婦人科医の受験者が減少傾向にあるように感じている。この状況を踏まえ、細胞診専門医に新たな付加価値を加え、より魅力ある専門医制度へと発展させていくことが重要だと痛感している。今後、さらに魅力のある学会として発展していけるようご協力をお願いしたい。

前回 (2024年度第4回理事会) 議事録について

2024年度第4回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告 (2025年04月17日現在)

全会員数：13,151名

(正会員 5,622名、準会員 7,283名、名誉会員 38名、功労会員 197名、図書会員 11件)

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,275名 (実数)

(認定：細胞診専門医 4,238名、細胞診専門歯科医 129名)

FIAC：61名 MIAC：25名

細胞検査士数：8,163名 (実数) (認定 11,766名)

CT(IAC)：3,488名

物故会員 (2025年01月25日～2025年04月17日)

正会員 たしろ かずひろ 田代 和弘 殿 (静岡赤十字病院 病理部)

さとろ ひろき 佐藤 宏喜 殿

大会準備状況

第66回春期大会(田畑 務、京王プラザホテル、2025年6月27日(金)～29日(日))、第64回秋期大会(有廣 光司、広島国際会議場・広島市文化交流会館、2025年11月29日(土)～30日(日))、第67回春期大会(宮城 悦子、パシフィコ横浜ノース、2026年6月12日(金)～14日(日))、第65回秋期大会(前田 一郎、幕張メッセ、2026年11月22日(日)～23日(月・祝))、第68回春期大会準備状況(横山 良仁、メトロポリタン仙台・仙台国際ホテルほか、2027年6月11日(金)～13日(日))、第66回秋期大会(板持 広明、アイーナいわて県民情報交流センター・マリオス盛岡地域交流センター、2027年11月13日(土)～14日(日))の準備状況に関する報告が行われた。

【常置・各種委員会から報告】

*総務委員会(委員長 進 伸幸)【資料 なし】

[申し送り事項]

1. 学会内、他学会、他団体との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。

[報告事項]

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. 2025年1月24日に第3回理事候補選挙管理委員会が開催され、そこで理事長選挙に関して、複数の立候補者があった場合の投票形態について意見が交わされた。理事会運営に関わる施行細則を確認したところ、第1条第6項に「理事長候補の選出は、(中略)郵便投票で行う」と記載されていることを確認した。理事長立候補者が複数の場合も電子投票で行う方が便利であるため、総務委員会で細則変更を協議することとなった。現在総務委員会内で通信委員会で、『理事会運営に関する施行細則』の改定と、『理事長候補選挙における電子投票に関する申し合わせ』という内規の制定について協議中である。次回理事会にて審議項目とする予定である。
3. 新役員の登録手続きが必要となる。6月中旬頃に事務局から就任承諾書と兼務届について案内を送付する予定である。提出の締め切りは7月中旬を予定しているため、ご協力をお願いしたい。

[審議事項]

なし

情報処理委員会(委員長 川名 敬)【資料あり】

[申し送り事項]

1. 本会ホームページの改訂を行う。

〔報告事項〕

1. 本会ホームページの改訂の進捗状況

2024/4/10 情報処理委員会でHPの改定案をまとめる。

2024/5/18 川名敬委員長・黒川・日本臨床細胞学会事務局からインターグループ社（HP制作社）に要望（前回の理事会で報告済）を伝える。

2024/11 インターグループ社から3案を受ける。（資料1-1、1-2、1-3）

2024/11下旬 理事・監事の先生方（43名）にアンケートを行い、回答をいただく。（資料2）

【結果】33名から回答を受ける。2名が重複回答。

案1 7名

案2 15名

案3 11名

どれも不相当 2名

2024/12 情報処理委員（8名中4名）から回答をいただく。（資料3）

【結果】33名から回答を受ける。1名が重複回答。

案1 0名

案2 4名

案3 1名

どれも不相当 0名

理事・監事・情報処理委員のアンケート回答において、いずれも案2が多数を占めた。

2025/1/中旬 御意見の中に散見された綺麗な写真への入れ替えを情報処理委員に依頼した。

2025/04/中旬 HPの写真を決定した。

〔審議事項〕

なし

*学術委員会（委員長 前田 一郎） 【資料あり】

〔申し送り事項〕

1. 2025年度学会賞・技師賞・班研究課題選出
2. 2025年度最優秀論文賞選出

〔報告事項〕

1. 2月12日（水）に締め切りされた最優秀論文賞は、和文：2件、英文：7件の応募があった。現在、3月14日（金）締め切りで学術委員会委員6名・編集委員会委員5名による審査が行われる。
2. 医療機関における病理細胞診断報告書および標本の保存期間について問い合わせ（日本病理学会）

医療業務委員長 佐々木 毅先生より) (資料1, 2)

[審議事項]

1. 最優秀論文賞選考結果について

(和文)

小原 勇貴 先生 (国立大学法人富山大学附属病院 病理部)

題：超音波内視鏡下穿刺吸引法施行時のオンサイト迅速細胞診におけるメンブレンフィルター法の有用性

推薦文：オンサイト細胞診における細胞回収率を向上させるための手法を示した研究で、実臨床に役立つ結果を提示している点で評価できる。なお、今回の2編の応募に対し、該当なしとの意見も複数存在した。最優秀論文賞 (和文) に推薦する。

(英文)

栗田 佑希 先生 (浜松医科大学先進機器共用推進部)

題：Enhancing cervical cancer cytology screening via artificial intelligence innovation

推薦文：AIを用いた子宮頸部細胞診の有効性や効率化に関する研究で、業務の効率化を図ることが可能になるとともに詳細な解析の成果が実用化に至っており、優れた内容の論文と考えられる。

審議結果⇒承認

2. 医療機関における病理細胞診診断報告書および標本の保存期間について

審議結果⇒継続審議 (社会保険委員会に引き継ぐ)

質疑：

- ・若狭 朋子 理事：これは保険診療における話ということか？
→病院業務の話として出てきたものである。(前田 一郎 理事)
- ・若狭 朋子 理事：病院業務ということであれば、専門医委員会または社会保険委員会で取り扱うのが適切ではないか？
- ・森井 英一 副理事長：病理学会の医療業務委員会において、ホルマリンを使用した臓器の破棄方法、スライドガラスの保管期間、パラフィンブロックの保管期間など、保険診療に関わる検体の保管期間の基準を策定している。それに準じた細胞診検体の保管基準をどうするかという問題であり、この件については、社会保険委員会に引き継いでもよいと考える。
→社会保険委員会で引き継ぐ。(若狭 朋子 理事)

*計理委員会 (委員長 山下 博) 【資料あり】

[申し送り事項]

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。
2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と2回の監査会を行い会員に報告をする。

3. 経理基準を確認し、内容について必要に応じて修正・更新を行っていく。

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

1. 冬木学園（畿央大学）とのeラーニングおよび教育セミナー・ワークショップに関する契約見直しについて： TKPに同様の業務内容での見積もりを依頼した（資料2）ところ、冬木学園から提案された金額よりはるかに高いことが確認された。計理委員会で討議し、冬木学園との契約更新（資料1）を理事会に提案することが決議された。

審議結果⇒継続審議（4年契約で進め、プラスアルファが出た際はその都度相談する方針とする。）

質疑：

- ・前田 一郎 理事：前回、4年契約との話だったと思われるが、今回は単年契約ということか？
→4年契約をした場合に、その額までディスカウントできるとご理解いただければと思う。（山下 博 委員長）
- ・前田 一郎 理事：デジタル化を進める話の中で、テストやeラーニングなどで追加の費用がかかる可能性があると思われる。単年契約にしておいた方がいいということはないか？
→事業に関連する拡張性がどの程度になるかが不明であるが、その方が良いのであれば従来の金額を踏まえディスカウントなしで単年度契約とする形になる。（山下 博 委員長）
- ・進 伸幸 理事：4年間で契約した上で、事業として拡張すべき部分があれば、プラスアルファを検討することは可能なのか？ その方が単年度契約より安くなるのであれば、メリットがあると考えます。
→先方の話では、初期投資の回収のために4年契約が必要であり、現在の枠組みではそれが難しいとのことである。そのため、プラスアルファで契約を追加することは可能であると思われる。具体的に追加契約としてどのようなことが想定されるのかを教えていただければ、先方に確認しやすい。（山下博 経理委員会委員長）
→承知した。（前田 一郎 理事）
→とりあえずは4年契約で進めさせていただき、プラスアルファが出た際はその都度相談をする形にさせていただきます。（山下博 委員長）

*編集委員会（委員長 都築 豊徳）【資料あり】

〔申し送り事項〕

1. 年間6回の電子ジャーナルの刊行、依頼原稿を予定（編数未定）。
2. 春期大会、秋期大会開催中に2回、それ以外に4回の編集委員会を開催予定

〔報告事項〕

1. 資料1に日本臨床細胞学会の現在の投稿状況を示す。

[審議事項]

なし

*細胞診専門医委員会（委員長 近内 勝幸）【資料あり】

[申し送り事項]

1. 令和 6年度教育研修指導医新規申請および資格更新
4月末日を申請期限とした。
2. 令和 7年度細胞診専門医資格更新
3. 令和 7年度細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定
4. 令和 7年度細胞診専門医資格認定試験
令和8年2月7日（土曜日）に実施予定。

[審議事項]

1. 教育研修指導医の新規申請審査、資格更新審査の実施時期について
事務局の業務負担軽減のため、上記審査を細胞診専門医資格更新審査会（例年2月の第三回細胞診専門医委員会）に合わせて実施することを提案する。その場合、下記審査を同日に行うこととなる。
 - 1, 細胞診専門医の資格更新審査
 - 2, 教育研修指導医の新規申請審査
 - 3, 教育研修指導医の資格更新審査
 - 4, 精度管理アドバイザーの新規申請審査
 - 5, 精度管理アドバイザーの資格更新審査（今後）

なお、変更に伴い3月末日の申請締め切り日を12月に早める必要があり、事務局から提案された12月20日としたい。

審議結果⇒継続審議

質疑：

・進 伸幸 理事：3ヶ月締め切りを早めることに関して、その時期に事業が集中するなどして大変になるということはないか？

→同時に審査を行った方が、効率的であると考えます。（事務局）

2. 細胞診専門医研修会単位申請手続きのペーパーレス化と、単位申請に関する施行細則の制定について

現在、細胞診専門医研修会単位申請は、以下の手順で行われている。

1. 申請者から郵送で事務局に単位申請書類が送られてくる
2. 事務局で内容を確認し、単位認定後に細胞診専門医委員長に書類を発送
3. 委員長が単位認定通知書に押印後、返信用封筒で申請者に返送

4. 開催終了後は主催者から事務局へ参加者リストを提出（郵送orメール添付）
事務局ではペーパーレス化を進めており、2025年5月以降、全てメールで行いたいとの要望が寄せられた。メールで行う場合、以下の手順となる見込みである。

1. 申請者からメールで事務局に単位申請書類が送られてくる
2. 事務局内で内容を確認し、単位認定後に委員長に書類をメール添付で送信
3. 委員長が単位認定承認の可否について事務局に返答
4. 承認もらった研修会は、事務局で単位認定書に承認印（電子印鑑）を押し、押印済単位認定書を事務局から申請者へメール添付で送る。
5. 開催終了後は主催者から事務局へ参加者リストを提出（メール添付）なお、事務局からは
 - 1) 開催終了後に提出する参加者リストを、データ化された報告書に統一したい
 - 2) 単位申請に関する内容を明記してほしいとの要望があり、手続きのペーパーレス化及び2)について、「研修会で取得可能な単位申請に関する施行細則（案）」の制定を提案する。

審議結果⇒継続審議

質疑：

- ・進 伸幸 理事：制度審議委員会での審議は済んでいるのか？

→すでに終えている。（近内 勝幸 委員長）

施設認定制度委員会（委員長 長尾 俊孝）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 新規施設認定審査（施設認定、教育研修施設認定）：
 - ・申請書提出締切：2025年4月30日（水）、書類審査：2025年5月中
2. 認定施設更新審査（認定施設、認定教育研修施設）：
 - ・申請書提出締切：2025年3月31日（月）、書類審査：2025年4月中
3. 2024年度・年報提出依頼とその集計解析（認定施設、教育研修施設）：
 - ・年報提出締切：2025年3月31日（月）、提出年報整理中
4. 2025年度・内部精度管理：
 - ・実地調査：2025年度新規認定施設全施設、書類調査：年報未提出施設
 - ・内部精度管理WGのもとで2025年度中に実施予定
5. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：
 - ・2026年度実施方法（完全WEB化）について外部精度管理WGのもとで検討
6. 2025年度委員会：
 - ・教育認定施設・年報・内部精度管理・外部精度管理の各WGにて行う

〔報告事項〕

1. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：

・外部精度管理 WG (湊宏 WG 長)のもとで解説作成・HPへ掲載済。各施設からの解答分析は1月末にHP掲載

・2025年2月中旬:結果・参加証等を施設へ発送済

・2025年6月:第66回日本臨床細胞学会総会(春期大会)にて、セッションを設けて解説予定

2. 内部精度管理:

内部精度管理 WG (浦野誠 WG 長)のもとで、新規認定3施設は実地調査、既存3施設は書類調査を2024年2月末から3月初旬にかけて実施。実地調査3施設全て「A:良」の判定。書類調査は現在審査中。

[審議事項]

なし

*細胞検査士委員会(委員長 三上 芳喜)【資料あり】

[申し送り事項]

1. 細胞検査士資格認定試験を実施する
2. 国際細胞検査士資格認定試験(IAC試験)を実施する
3. 精度管理アドバイザー(細胞検査士)を認定する

[報告事項]

1. 第58回細胞検査士資格認定試験の準備状況
 - ・1次試験を2025年0月5日(土)に大阪(CIVI研修センター新大阪東)、2次試験を12月6日、7日に東京(TKPガーデンシティ御茶ノ水)で開催する。
 - ・第1回試験運営委員会を3月6日(木)に開催する予定としている。

[審議事項]

1. 細胞検査士資格更新施行細則改定
事務局業務の効率化・ペーパーレス化の一環として、学術集会・研修会の単位申請手続き、参加者リスト(データ)の提出をメールで行うようにするため、細則を変更する。

審議結果⇒継続審議

細胞検査士資格更新審査委員会(委員長 井上 健)【資料なし】

[申し送り事項]

1. 2025年度細胞検査士資格更新作業
10385-10636
※2026年2月 更新審査会開催予定

[報告事項]

1. 2024 年度細胞検査士資格更新審査結果全 1701 名

更新可	1,599名	94%
前回条件付更新可で今回条件クリア	9名	0.5%
条件付更新可	4名	0.2%
保留更新	1名	0.1%
資格失効	20名	1.2%
更新辞退	30名	1.8%
退会・退会申請中	38名	2.2%

更新可には3月中に結果発送済み

通常更新可以外（条件付更新可・保留更新）の更新結果書類は4月発送済み

未申請でレターパックプラスへの反応が無かった方たちには資格失効通知済み

〔審議事項〕

なし

*教育委員会（委員長 横山 良仁）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 2025 年度 事業計画

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第134回細胞検査士養成講習会	2025年7月14（月） ～7月26日（土） 13日間	場所：杏林大学保健学部実習室(井の頭キャンパス) 実施委員長：阿部 仁（がん研有明病院） 現地実習+現地講義、受講人数： 40名予定
第50回細胞診断学セミナー	WEB講義視聴期間：未 定	WEB開催 実施委員長：教育委員会委員長 WEBについて受講者数制限なし
第85回細胞検査士教育セミナー	WEB講義視聴期間： 未定	WEB開催 実施委員長：棚田 諭（大阪国際がんセンター 医療技術部臨床検査部門） 受講者数制限なし
第90回細胞検査士ワークショップ	鏡検実習日：9月27日 （土） WEB講義視聴期間：	場所：新潟大学医学部実習室3A 実施委員長：遠藤浩之（済生会新潟病院 病理診断科）

	9月22日（月）～ 10月6日（月）	現地実習+Web講義予定 講義と現地実習受講人数：未定 講義のみは人数制限なし
第91回細胞検査士ワークシ ョップ (12月～3月の期間)	鏡検実習日：未定 WEB講義視聴期間： 未定	場所：未定 実施委員長：藤田 勝（倉敷成人病セン ター 病理科）

〔報告事項〕

1. 細胞診断学セミナーの実習に相当するWSI実習についてデジタルサイトロロジー・AI検討WGが中心となり委員会横断的に検討することになった。

〔審議事項〕

なし

*渉外・広報委員会（委員長 森定 徹）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。

〔報告事項〕

1. 「日本臨床細胞学会の著作物の転載に関する要領」、「転載許諾申請書」について案を作成し、認可を受けた。外部より転載許諾の申し出があった際には、渉外・広報委員会が窓口として受付けた後に関係委員会へ振り分けを行っている。

- ・2024/3月 準学術（商業誌等）1件
- ・2024/6月 商用（販売促進資料等）1件
- ・2024/9月 準学術（商業誌等）1件
- ・2024/10月 準学術（商業誌等）1件
- ・2024/12月 準学術（商業誌等）2件
- ・2025/4月 準学術（商業誌等）1件

〔審議事項〕

1. 本会の著作物（細胞検査士試験問題）の転載利用事例への対応について
Web上の細胞検査士試験問題について、約2年前に1人の会員の先生が転載し、問題集として解答や解

説をまとめ、Webや書籍で販売した事例があった。この件については、2年前から理事会でも議論となっているが、これを受け渉外広報委員会において転載許諾に関する要綱を策定した。その要綱を先方に送付し、先方から自身の見解とともに問題集の転載利用についての返答があった。本学会では転載利用を「学術」「準学術」「商用」の3区分に分類している。学術的な利用の場合は無償とし、準学術の場合は図表1点につき1万円、商用利用の場合は図表1点につき10万円の料金設定としている。今後、先方との交渉にあたり、どのような価格設定とするかを広報委員会において議論する予定であるが、おそらく準学術の扱いとする方向になると考えられ、現状を本学会の弁護士である栗原氏と相談しながら対応を進める予定である。今後、学会としての正式な回答を求められる可能性があり、理事長や本委員会の先生方とも協議しながら進めていくことを考えている。

審議結果⇒継続審議

質疑

・進 伸幸 理事：今回先方からは、どれに該当するかという自己申告はあったのか？

→本年3月に作成したこの転載の区分様式において「準学術」を選択されている。過去の交渉の経緯を確認したところ、弁護士および当時の理事の先生方も、会員を教育するという意味合いが含まれることから準学術として取り扱う方向へ議論が進んでいた流れがあった。（森定 徹 委員長）

・佐藤 之俊 理事：準学術の範疇にあるとしても、収益が発生している場合は商用として扱うべきではないかという考え方はあるのではないかと？

→交渉の過程を確認すると、おそらく2年前に本人との折衝がかなり行われたと記憶している。今回、3月に準学術として申請してきた際にも、商用ではないとの認識を自身で記載している。そのため、こちら側から商用と判断した場合には、金銭的な問題を含めリーガル面へ深く踏み込んでくる可能性があると考えられる。そのため、先に栗原弁護士と面談し対応を検討する予定である。最終的には先生方とも相談し、準学術として扱うか商用とするかの決定を行いたい。この件に関しては現時点では暫定的であるため、その点をご理解いただきたい。（森定 徹 委員長）

・進 伸幸 理事：具体的に何部販売され、どの程度の収益が上がったのかについて、詳しい申告はされていないのか？

→それについては記載されていない。（森定 徹 委員長）

・進 伸幸 理事：商用と準学術のいずれに該当するかについては、リーガルの先生と各種データをもとに検討いただきたい。この件は今後の理事会の議題として挙げていただきたい。

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料あり】

〔申し送り事項〕

1. 2026年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく

〔報告事項〕

1. 令和8年度診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚生労働省などと交渉を進め、

あるいは対外的に活動していく。

今後のスケジュール

- ①令和7年4月25日 内保連へ提案書提出締め切り
- ②令和7年5月 内保連のヒアリング
- ③令和7年6月 厚労省へ最終提案書提出
- ④令和7年7月 厚労省のヒアリング

2. 東海・北陸地方における病理組織診と細胞診の併算定が査定されていた問題

①令和7年3月3日付で臨床細胞学会 岡本理事長名義で中部審査事務センターへ質問状を提出
(資料1)

②令和7年3月17日付で回答あり。(資料2)

令和6年度診療報酬改定において変更された内容を含め、審査上の取り扱いを協議する方向で検討している。

洗浄腹水(又は胸腔水)細胞診に関しては、同一検体とは判断しませんので組織診と細胞診の併算定が認められる取扱いとなる。今後の査定状況を引き続き調査していく。査定状況は5月末に判明する予定である。

[審議事項]

1. 喀痰細胞診の原価計算東北を中心に多数のデータの提供をいただいた。3月までにデータ解析は、継続中

審議結果⇒継続審議(データ解析を継続する方針とする。)

質疑:

・前田 一郎 理事:日本デジタルパソロジー研究会の理事長を拝命している立場から、メールを差し上げた。病理学会からその件を出すと言われているが、細胞診の内容が含まれていなかったため、追加した方がよいと考えている。

→確認してお返事する。(若狭 朋子 社会保険委員会委員長)

地域連絡委員会(委員長 伊藤 潔)【資料なし】

[申し送り事項]

1. 2023年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。

(締切:2025年3月中旬)

2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。

[報告事項]

1. 2023年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について:

1) 2023年度報告書の提出の案内をメール・日本臨床細胞学会ホームページに案内を掲載済。現在、データの集計中である。

2. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について：

1) 2024 年度の活動支援の申請件数 42 件 (47 件中)

(中止 5 件：奈良、三重、大阪、山口、徳島、)

開催後、実施内容報告書を提出した地域学会に対して、5 万円を上限とした助成金の支援を行う。

申請件数 42 件 (47 件中) 調査集計

最終内訳 開催中止：6 件 開催実施済：41 件

2) 2025 年度の地域連携組織に対する活動支援について、助成金 5 万円を上限とし、希望する地域学会は 2025 年 3 月末日までに、申請書を提出するように依頼済。

申請書を受け付けた地域連携組織には、成果報告書提出のご案内をメールで送付済である。(申請書提出 41 件 未着地域 6 件 (2025/4/17 現在))

(未着地域：栃木、埼玉、岐阜、三重、島根、徳島)

[審議事項]

なし

*国際交流委員会 (委員長 山口 倫) 【資料なし】

[申し送り事項]

下記事業を行っていく。

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
2. 日-韓、日-タイ 合同カンファレンス (合同会議) のサポート
3. IAC, ECC のサポート
4. カンボジアとの交流サポート (2025年まで)
5. 5th JHU-ASC-JSCC workshop meeting
6. Asian Federation of Cytology設立サポート
7. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

[報告事項]

1. ICC の研究助成金 1 名につき 50 万円 (国際交流委員会より 3 名、ICC 関連委員会より 3 名) の選定中。
2. 2025 年の第 66 回春期大会グローバルアジアフォーラムの概要。

Global Asia Forum 6月28日(土)13:10-14:40

セッションテーマ: “Cytology in Asia: Up to date”

座長 長村 義之先生 (日本鋼管病院)

演者

・Mark Chien-Chin Chen

所属: Human Biobank, Taiwan

Cervical Cancer Prevention and Screening in Taiwan: the changing year 2025.

- 里見 英俊
所属：大阪国際がんセンター
Distinctive Lymph Node Lesions in Japan: Beyond Spatiotemporal Boundaries and Morphology
 - Nguyen Thi Hang
所属：Vinmec Healthcare System Vinmec Times City International Hospital, Vietnam
NIFTP: From Cytology to Histopathology - What Have We Learned?
 - Rizky Ifandriani Putri
所属：Dharmais Cancer Hospital -National Cancer Center, Indonesia
The role of fine needle aspiration in breast cancer with neoadjuvant chemotherapy.
3. 第 29 回日タイ細胞診 WS 2025 年1月22 日(水)・23 日(木)・24 日(金) (終了)
開催地,会場 :Amari Hua Hni, Chiang Mai, Thailand
 4. 4th JHU-ASC-JSCC workshop meeting
Date; Nov 28(Fri)29(sat), 2025
Venue; TKP Hiroshima Hondoriekimae Conference center (検討中)
 5. 日韓交流に関して (内藤嘉紀先生担当より)
第 22 回日韓細胞診合同会議 2025 September 27
韓国の新体制
 - President: Professor Yoon-Jung Choi (Yonsei University College of Medicine, Yonsei Severance Hospital)
 - Vice President: Professor Jong-Woo Yoo (National Cancer Center)
 - General Secretary: Professor Lucia Kim (Inha University College of Medicine)
 - Deputy General Secretary: Professor Mi Jang (Yonsei University College of Medicine, Yonsei Severance Hospital)
 - Director of the Scientific Programs: Professor Yosep Chong (The Catholic University of Korea, Uijeongbu ST. Mary's Hospital)
 - Chair and Director of the Committee of International Affairs: Myself, Ji-Young Kim
 - Secretary of the Committee of International Affairs: Professor Uiree Jo (Ulsan University College of Medicine, Asan Medical Center)

日韓細胞診合同会議で発表された症例のうち (日本臨床細胞学会推薦が必須) 、 韓国病理学会雑誌 (JPTM、IF:1.7) に投稿される場合は掲載費用免除
韓国病理学会雑誌 (JPTM、IF:1.7) への総説投稿 (推薦という形) される場合には、謝金として 1,000,000ウオン
上記内容を照らし、以下の3名の先生方が該当。内藤先生が韓国側と連携をとり進めている。
2023年発表 (ポスター) : 高橋弥冴 先生 臨床検査技師 (大森赤十字院)・・・掲載費免除決定
2024年発表 (レクチャー) : 廣川満良 先生 医師 (隈病院)・・・謝金申請中

2024年発表（スライド・カンファレンス）：藏本純子先生 医師（慶応大学）・・・掲載費免除申請

〔審議事項〕

なし

*制度審議委員会（委員長 宮城 悦子）【資料あり 1～5】

〔申し送り事項〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルテーションを受け、必要な提案を行う。
2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施

〔報告事項〕

1. 2024年度第4回理事会にて承認された以下の項目の改定および追加を行った定款・施行細則
 - p. 31 委員会に関する施行細則
 - p. 45 細胞診専門医資格更新，資格消失に関する施行細則
 - p. 84 細胞診専門医会に関する施行細則
 - p. 87 細胞検査士会に関する施行細則
 - p. 91 臨床研究審査の指針
 - p. 98 海外渡航旅費助成金に関する施行細則
2. 細胞診専門医委員会より審議依頼があった若狭朋子理事会より審議依頼があった定款・施行細則
 - p. 84 「細胞診専門医会に関する施行細則」および p. 87 「細胞検査士会に関する施行細則」改定案について令和7年3月6日（木）より令和7年3月15日（土）にメール審議を行った。内容は資料1 議事録参照。
3. 定款・施行細則 p. 45 「細胞診専門医資格更新，資格消失に関する施行細則」改定案について令和7年3月6日（木）より令和7年3月15日（土）にメール審議を行った。内容は資料2 議事録参照。
4. 森井英一副理事長より審議依頼があった公益法人法の改訂に伴う定款・施行細則改定案について令和7年3月7日（木）より令和7年3月14日（金）にメール審議を行った。内容は資料3 議事録参照。
5. 2024年度みなし理事会にて承認された以下の項目の改定および追加を行った定款・施行細則
 - p. 17 役員等選任に関する施行細則
 - p. 27 役員の報酬等の支給に関する規程
6. 細胞診専門医委員会より審議依頼があった定款・施行細則「研修会で取得可能な細胞診専門医資格更新単位認定の申請に関する施行細則」案について令和7年4月22日（火）より令和7年4月25日（金）にメール審議を行った。内容は資料4 議事録参照。
7. 細胞検査士委員会より審議依頼があった定款・施行細則「研修会・学術集会等で取得可能な細胞検査士資格更新単位認定の申請に関する施行細則」案および定款・施行細則 p. 62 「細胞検査士資格更新実務に関する施行細則」改定案について令和7年4月23日（水）より令和7年4月25日（金）

にメール審議を行った。内容は資料5議事録参照。

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 伊豫田 明）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. MSCホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく
2. 医療安全セミナー開催

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナー、感染対策セミナー開催

第66回日本臨床細胞学会総会春期大会

■医療安全セミナー

演題名：「医療安全の視点から考える臨床倫理と患者ハラスメント」

座長： 東邦大学外科学講座呼吸器外科学分野 伊豫田 明

演者： 三重大学医療安全科 兼兒 敏浩先生

日時： 2025年6月（会期：2025年6月27日-29日）

■感染対策セミナー

演題名：「細胞診で想定する感染症」

座長： 日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野 川名 敬先生

演者： 東京女子医科大学感染症科 菊池 賢先生

日時： 2025年6月（会期：2025年6月27日-29日）

第64回日本臨床細胞学会秋期大会

■医療安全セミナー

演題名：「変化にしなやかに対応できるシステムづくり」

座長： 県立広島病院臨床研究検査科・病理診断科 西阪 隆 先生

演者： 広島大学病院 医療安全管理部 伊藤 英樹 先生

日時： 2025年11月（会期：2025年11月29日-30日）

■感染対策セミナー

演題名：コロナパンデミック、サイレントパンデミック AMR から学ぶ感染対策

座長： 広島大学大学院医系科学研究科 病理学研究室 武島 幸男 先生

演者： 東邦大学医学部微生物感染症学講座 舘田一博 先生

日時： 2025年11月（会期：2025年11月29日-30日）

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 春期大会および秋期大会における医療倫理セミナーについて、大会長と協議の上、企画し開催する。
2. 学会抄録応募の際の倫理に関して、日本医学会連合において指針の変更があり、対応中である。

〔報告事項〕

1. 学会抄録応募の際の倫理に関して、日本医学会連合において指針の変更があり、それに対応するため、委員会内メールで意見を求め、Web 会議を開催した。本委員会としては、日本腹部救急医学会作成の一部改変したカテゴリー分類のフローチャート図を、日本医学会連合が作成した指針に置き換え、そちらに全て準拠する形で他学会とも足並みを揃える方向性とする結論に至った。現在、本学会では学会発表・論文投稿の倫理指針を定めているが、その文言について精査を進めており、学術委員会および編集委員会の意見を聞き、制度審議委員会に諮った後、理事会で審議をしていただく予定である。すでに秋期大会の演題募集が始まっており、来年の春期大会に間に合うように改定を完了させることを目指している。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 大平 達夫） 【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 役員および発表者（非会員含む）の事業活動に係わるCOI状態の判断ならびに助言、指導
2. 会員個人のCOI申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関すること。
3. 対象者に対して利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔報告事項〕

1. 役員改正後に対象者に対して利益相反自己申告を依頼する予定。

〔審議事項〕

なし

臨床研究審査委員会（委員長 渡利 英道） 【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 臨床研究審査委員会を1回、春期大会時あるいはメール会議で実施予定。
2. 臨床研究計画書が提出された場合には、随時審査を行う。

〔報告事項〕

1. 新規臨床研究の審査依頼なし。

〔審議事項〕

なし

IAC連絡委員会（委員長 佐藤 之俊）【資料 あり】

[申し送り事項]

1. 国際交流委員会、細胞検査士委員会と連携して IAC 試験問題の日本語訳を行い、試験実施に協力する。
なお、2025 年度の試験は 7 月 12 日（土）に東京で実施予定。
日本語翻訳は進行中で、クラウドを用いた作業で IAC 連絡委員会での翻訳→細胞検査士委員会・国際交流委員会の選抜メンバーによるチェックの流れで進めている。
IAC 試験に関する規則の見直しと必要事項の整備。
2. IAC 資格更新について、2023 年度以降の IAC 資格更新は、更新開始アナウンスと完了後の更新シール発送のみ JSCC が受け持ち、更新申請は IAC のサイトで直接行う。
3. JSCC 会員の IAC への加入と資格取得者増加を推進する。
4. IAC の諸行事への協力（ウェビナーやチュートリアル案内等の周知）。

[報告事項]

1. 国際交流委員会、細胞検査士委員会と連携して IAC 試験模擬試験問題の日本語訳作業を行った。
2. The 22nd International Congress of Cytology 2025 は、2025 年 5 月 11-15 日にイタリア フィレンツェ Forteazza da Basso にて開催される（資料）。
 - ・コンパニオンミーティングを企画した。なお、国際化を推進するため、トラベルグラントを整備し、支給者の審査を行った。
 - ・ICC2025 で日本から 3 名が受賞予定となっていることが報告された。
 - 長村 義之 監事： George L. Wied Award 2025
 - 廣井 禎行 先生： 2023 Cytotechnologist of the Year Award
 - 佐藤 之俊 理事： The Kazumasa Masubuchi Award 2025
 - ・長村 義之 監事より以下のアナウンスがあった。

AFCS (Asian Federation of Cytology Society) が、アジアにおける細胞診の活発化、連携、交流、賦活化を目指し発足することとなった。日本でもおなじみの Syed Ali 氏が IAC の新 President となり、同氏の尽力により ICC2025 (フィレンツェ) においてアナウンスされ正式に活動を開始する予定である。光栄にも私が初代 President に指名され、Secretary は香港の Gary Man Kit Tse 氏が務め、毎年 AFCS の Annual Meeting および学会が開催されることとなる。第 1 回は 2026 年 4 月に香港で開催され、第 2 回は翌年の 2027 年に春の臨床細胞学会と合同あるいは同時期に開催予定であることまでが、正式にアナウンスされる予定である。先生方には、今後ともご協力、ご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

[審議事項]

なし

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）のデータ解析と論文発表を行う。

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）の進行状況：
 - ① 本研究では、2013～2014 年度に研究参加した子宮頸がん検診受診者の初年度以降のデータの収集を研究事務局、データセンター（神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター）、EDC管理担当（メディカルエッジ）、関係医療機関と協力して完了した。研究成果について第65回春期大会（森井会長）で最終報告した。現在はこの最終報告データをもとに論文化を進めている。本ワーキンググループはこの論文化が完了した時点での解散を計画している。論文公表時には、ホロジックジャパン株式会社より研究資金、研究資材の援助を受けたこと、本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。
 - ② 国の指針がHPV単独検診の方向に動いたことに対応するために、追加でデータ解析を行うことについて、費用的な面はPIの青木先生がご負担いただき、神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センターと PI 青木先生の間で契約を結ぶ形で作業を進めることに以前の理事会で承諾をいただいた。（PIの青木 大輔 専門医会会長より以下の発言があった。研究を開始してから約13年が経過している。結果をまとめるにあたり周囲の環境が大きく変化してしまっていることから、追加の解析を行う必要があり、その解析についてお願いしたい。費用については、自身の研究費から捻出する予定である。）

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）

【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNAの重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験は限られている。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA品質を検証する。

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNAの重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体におけるDNA/RNA品質を検証している。
2. 実証実験のまとまったものをもとに指針の第二版を発出した。臨床検体を用いた実証実験、次世代シ

ークエンサーを用いた実証実験を中心に今回はまとめている。今後、さらなる実証実験を続ける予定である。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料 なし】

〔申し送り事項〕

1. ゲノム時代における細胞診のあり方ワーキンググループの活動に協力する。
2. 日本肺癌学会のバイオマーカー委員会と連携した検討を考慮する。

〔報告事項〕

1. がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針の第2版の作成に協力した。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）【資料 なし】

〔申し送り事項〕

1. 南論文の採用をもってワーキンググループ活動を終了する。なお、活動終了時に活動成果の振り返りと今後の課題を議論しまとめる。

〔報告事項〕

1. 肺癌取扱い規約第9版(本年1月発刊)編集へ協力した。
2. 研究成果の論文化について
 - ・河原邦光, 廣島健三, 吉澤明彦, 南優子, 羽場礼次, 竹中明美, 柿沼廣邦, 三宅真司, 渋木康雄, 佐藤之俊. 日本肺癌学会・日本臨床細胞学会が提唱した新呼吸器細胞診報告様式の異型細胞に含まれる反応性異型細胞. 日臨細胞誌 63(6):306-314, 2024.
 - ・Minami Y et al. New WHO Reporting System for Lung Cytopathology: Reproducibility Test of the Diagnosis and Usefulness of an Online Tutorial System for the New Cytological Categorization. (Acta Cytol に採用済)

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 成果を論文として公表する。(現在投稿中)
2. 乳癌取扱い規約への掲載を目指す。

〔報告事項〕

1. 現在論文投稿中である。
2. 乳癌学会への働きかけを行い、改訂中の取扱い規約に紹介文が掲載される予定である。

〔審議事項〕

なし

デジタルサイトロロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）【資料なし】

〔申し送り事項〕

〔報告事項〕

1. デジタルサイトロロジーを使用した診断・判定機器の調査
2. 学会発表等で、デジタルサイトロロジーの最新情報の発信
3. 日本臨床細胞学会デジタル化についての検討を進める

〔審議事項〕

1. アドバイザー追加メンバー（以下委員会，WG，委員長+α）

理事長 森井英一先生、細胞診専門医委員会、施設認定制度委員会、細胞検査士委員会、教育委員会、施設認定制度委員会、細胞検査士資格更新審査委員会、細胞検査士資格認定試験のあり方に関するワーキンググループ、子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関するワーキンググループ、肺癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ

審議結果⇒承認（アドバイザーの人選に関しては、前田 一郎 委員長をはじめとして、各委員会の先生とのやり取りの中でフレキシブルに決定していただく。）

・進 伸幸 理事：各WGおよび委員長と委員長から推薦されたデジタル化に詳しい先生方に加わっていただくということになるのか？

→その方がよいと考えている。（前田 一郎 委員長）

・横山 良仁 理事：教育委員会からも委員会横断的にということをお願いした。委員長推薦として、教育委員会内でデジタル化に詳しい先生に加わっていただくことを許可いただきたい。

→各委員長はアドバイザーの立場として参加は任意という形にして、受診した連絡メールを委員会内の誰に送信するかを決めていただければと考えている。（前田 一郎 委員長）

肺癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 腹腔細胞診診断基準・ガイドラインの策定
2. 抗凝固剤や溶血剤の細胞形態への影響の検討

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

細胞検査士資格認定試験のあり方に関するワーキンググループ（委員長 三上 芳喜） 【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 細胞検査士資格認定試験にまつわる諸問題・課題について討議し、提言を発出する。

〔報告事項〕

1. 2025年5月8日（木曜日）に第3回のWEB会議を開催する。

〔審議事項〕

なし

子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関するワーキンググループ（委員長 田畑 務）

【資料あり】

〔申し送り事項〕

1. 2024年3月26日 第1回目のZoom会議を行った。
2. これまでにかん研有明病院にメンバーが集まり、3回の検討会の場を持った（2024年8月10日、11月3日、2025年1月18日）。検討会では、メンバー全員でHPV陽性症例の検鏡を行った。今後は、HPV検査単独法に対応できるように、HPV陽性症例の中でもNILM、または、ASC-US以上と判定すべき基準作成を目指していく予定である。
3. 検討結果は2025年6月の第66回日本臨床細胞学会春期大会にて発表予定である。

〔報告事項〕

1. 第66回日本臨床細胞学会春期大会にて「子宮頸がん検診における『JAPAN LBC宣言』」として、子宮頸がん検診に於いてLBCを全国的に普及するよう、関連団体（日本産科婦人科学会、日本婦人科がん検診学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産婦人科医会）と共に本学術集会で宣言を行うことに了承を得た。

〔審議事項〕

なし

選挙管理委員会（委員長 森井 英一） 【資料なし】

〔申し送り事項〕

1. 2025年度・2026年度役員選挙 評議員・理事選全国区・理事選地方区・理事長選挙を行う。

〔報告事項〕

1. 2024年10月9日（水）第2回2025・2026年度理事候補選挙管理委員会を開催
2025・2026年度全国理事候補選挙開票結果確認等を行った。
次期評議員候補者数 451名（2024年9月30日正午 電子投票締切）投票者数 412名

(投票率 91.4%) 前回投票率 87.3%

2. 地方区理事選出を行った。関東、近畿で選挙があり、投票率は関東で83.2% (前回80.3%)、近畿で89.8% (前回は選挙なし) であった。

[審議事項]

なし

その他

[報告事項]

1. 理事候補選挙管理委員会 (森井英一) (0.05_2025・2026年度全国区・地方区理事候補者一覧)
森井 英一 副理事長より、全国区および地方区の理事候補が選出された旨の報告があった。
2. 理事長選挙スケジュール (進 伸幸) (0.06_2025_2026年度理事長候補選挙スケジュール)
立候補者が1名であったため、森井 英一 副理事長が理事長候補者として選出された旨の報告があった。
3. 今後のスケジュール (0.07_2025年度日本臨床細胞学会予定表 20250417 現在)
4. 会員資格停止者について (0.03_会費滞納者一覧 20250415 現在)
2年以上の会費滞納者の資格停止については、次回6月の理事会で審議される。

[審議事項]

1. 会員資格復帰希望者について (0.04_会員資格復会希望者20250415現在)
審議結果⇒承認 (3名より復会希望が提出され、承認された。)
2. 2024年度事業報告案について (0.08_2024年度事業報告案)
審議結果⇒承認 (岡本 愛光 理事長より詳細の説明があり、承認された。)
3. 2024年度決算案について (0.09_2024年度決算案)
審議結果⇒承認 (山下 博 計理委員会委員長より、決算案につき詳細の説明があり承認された。)
4. 2025・2026年度委員会構成について (0.10_2025・2026年度委員会構成)
審議結果⇒承認 (岡本 愛光 理事長より各委員会委員長、担当理事について提示があり承認された。)
5. 理事候補・推薦理事選任案 (0.11_2025・2026年度理事候補・副理事長候補・推薦理事候補・監事候補・推薦評議員候補一覧)
審議結果⇒承認 (岡本 愛光 理事長より理事候補・副理事長候補・監事候補・推薦理事候補・推薦評議員候補・顧問候補について提示があり承認された。)

6. 総会案内一式について (0.12_総会案内一式)

審議結果⇒承認（各文面について確認が行われた。パスワード入力画面を修正した上で、承認された。）

質疑：

・佐々木 寛 監事：公益社団法人法の改正に伴い、外部理事・監事の選任が必須となることを受け、理事長と協議の上で適切な人選を進めてきた。これまで職域健診に関与し情報収集に努めてきたが、監事退任に伴い、今後理事会の皆様が職域健診の動向をより把握しやすくする体制構築を考慮した。職域健診には、全国健康保険組合と協会健保の二つの主要なグループが存在する。そこで、全国健康保険組合本部 保健部 保健企画グループの園川太郎氏を外部理事候補として、また健康保険組合連合会 参事の小松原裕介氏を外部監事候補として推薦した。この2名を選任することで、職域健診およびドックにおける細胞診の動きが迅速に把握できるようになり、情報収集が円滑に進むことが期待され、岡本 愛光 理事長とも相談の上で学会の運営にとって有益であると判断し、推薦させていただいた次第である。

・進 伸幸 理事：定款変更ということで今回特に3分の2以上の定足数を満たす必要があるということで、3分の2の部分をもう少し強調した方がよいのではないかと？

→現状より3分の2の部分の強調することは困難であるが、メールアドレスをお持ちの方はサイト上から委任状を提出できる仕組みとなっており、委任状に各議案への賛否のチェックを入れ提出いただくことで、当日ご出席の方と合わせて必要な定足数を確保することができるかということになる。勿論、追加のメールにて督促を行う予定である。（事務局）

・佐々木 寛 監事：かつて定款変更をした際は、定足数ギリギリであった。事務局から、何度も直前まで電話で督促を行ったという経験がある。今回もよろしく願いたい。

・進 伸幸 理事：リマインドメールを送信する時期と回数については計画済みか？

→週に1回金曜日に、提出済みの会員も含めて送信する計画である。（事務局）

・前田 一郎 理事：例年、委任状は何%程度集まるのか？ パスワード入力画面にパスワードを忘れた方への案内を入れた方がよいのではないかと？

→事務局から、個別にパスワードを含むURL が送られる予定ですので、受信されたメールからアクセスしていただくようお願いしたい。例年の委任状の回収率は58%前後である。（事務局）

・進 伸幸 理事：理事の先生方からも周りの先生に、委任状あるいは議決権を行使するようにお伝えいただきたい。

・前田 一郎 理事：評議員の先生方にも周知をお願いしておいた方がよいと考える。

・佐々木 寛 監事：会費未納や連絡が取れない会員の議決権について対策を立てる必要がある。

・森井 英一 副理事長：定款を詳細に確認したところ、議決権を行使できる正会員の条件として会費を長期滞納していないという規定がある。議決権行使の案内は全ての正会員に送られるが、会費を滞納し連絡が取れない会員はもともと議決権行使の対象外となる。よって、総会における定足数の母数から会費滞納者を除外した後の有効な正会員のうち3分の2以上が賛成すればよいという理解となる。2024年度までの会費完納者が議決権行使権を有することになる。事務局において、日々議決権の行使状況を把握しながら、必要に応じてピンポイントで督促を行うことが現実的な対応策と考えられる。

・進 伸幸 理事：パスワード入力画面のパスワードを忘れた方への案内については？

→事務局に問い合わせいただければすぐにお答えできるが、パスワード入力画面の修正も行う。(事務局)

・宮城 悦子 理事：地域連携組織からアナウンスすることは問題ないか？

→各地方の学会の方でご協力いただけるのであれば、ぜひ呼びかけをお願いしたいので、本理事会での承認事項とさせていただく。(進 伸幸 理事)

7. 事務局移転について

審議結果⇒承認(岡本 愛光 理事長より詳細の説明があり、承認された。物件の選定については岡本 愛光 理事長に一任とする。)

質疑：

・進 伸幸 理事：工事が始まる前の6月までに転出することになるのか？

→それは難しい。実際に新たな事務局への移転が決定しても2か月程度はオーバーラップしてしまうだろう。しかし、長期的に考えると費用の削減につながると考える。(岡本 愛光 理事長)

・山下 博 理事：法人会計の経常費用削減につながるため歓迎する。

・佐々木 寛 監事：築40年となると耐震基準も古く、監事としては絶対に進めるべき事案と考える。

・森井 英一 副理事長：物件の選定については、岡本 愛光 理事長に一任することを本理事会で承認していただきたい。

・佐藤 之俊 理事：老朽化部分の改修工事が始まった場合、その費用が転嫁されるということはないのか？

→それについては言われていないが、騒音と梅雨時期の雨漏りが大変だろうと思われる。(事務局)

8. 名誉・功労候補者一覧(0.13_2024年名誉会員功労会員候補者一覧)

審議結果⇒承認

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、岡本 愛光 理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2025年 5月 26日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 岡本 愛光



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛 

監事 土屋 眞一 